



ハナノキの花

2018年度 第2回調査

「集まれ! モミジ (カエデ) の仲間たち」調査報告

昨年秋に行われたモミジ(カエデ)調査の結果がまとまりました。

秋ともなれば、多くの人が紅葉(こうよう)を楽しみますが、皆さんはそれらの樹種名をどれくらい知っていますか。「もみじがり」という言葉に代表されるように、イロハモミジを知っている方は多いと思いますが、例えば「モミジ(カエデ)の仲間をどれくらい知っていますか?」 と聞かれたら、何種類くらい答えることができますか。

秋の代表樹種でありながら、紅葉(もみじ)という名でひとくくりにされがちなカエデの仲間たち。庭木や街路樹としても使われるカエデの仲間たち。街と山で見るカエデの種類は違うのか?植栽されたカエデは、場所によって樹種は異なるのか?考えてみると、身近でありながら、あまり注意深く調べていないカエデの仲間たち。これは、まさにフィールドレポーター調査にふさわしいテーマでした。今回の調査では、カエデの種類や分布、自生・植栽について、レポーターの皆さんに調べてもらいました。

調査結果では、滋賀県内にはカエデの仲間が思いのほか多いことや、山地中心の樹種と平地(居住地周辺)中心の樹種が各々見られることが分かりました。詳細は本文を読んでいただくとして、本調査のデータをさらに詳しく調べてみると、さらに面白いことが分かりつつあります。それは、標高別に樹種の種類を並べてみると見えてくることなのですが…。紙面の関係上この結果は便りに掲載できませんでしたが、今年 10 月に行われる「びわはくフェス」の時には、きっとポスターとして掲載されるはずです。乞うご期待下さい。

また、今回は植栽されたカエデが複数種いるところで、「どの樹種が一緒に生えているか」 についても調査をまとめています。この結果は私を含め、読者の皆さんが「なるほど」と 思う結果でした。本文「4. 共出現」を読む前に予想してみてください。さらに、モミジ への興味関心と紅葉の楽しみ方についても、アンケート調査を実施しています。こうした 調査は、フィールドレポーター独自の視点であり、親近感を持つ結果だと思いました。

最後になりましたが、この調査の巻末についているカエデの仲間の見分け方(資料)は、 とても分かりやすいです。この調査結果を読んで、カエデの仲間たちに興味を持たれた方 は、資料を片手にカエデの仲間探しをしてみませんか。きっと新しい発見があるはずです。

(担当学芸員 大槻 達郎)

琵琶湖博物館フィールドレポーター 2018 年度第2回調査

「集まれ! モミジ(カエデ)の仲間たち」調査報告

フィールドレポーター・スタッフ 前田雅子

私たちがモミジという時には、手のひら形の小さな葉をつけた木をイメージすることが多いと思います。今回はモミジを含むカエデの仲間全体を対象としたため、調査中に紛らわしい木に出くわして「これはカエデ(モミジ)?」と悩んだ人が多かったのではないでしょうか。葉を手に取って観察したいけれど、手が届かなくて困った人もあったようです。皆様にはご苦労をおかけしましたが、たくさんの調査票とサンプルが集まりました。本当にありがとうございました。

調査の結果、山地を中心に分布する種(しゅ)と平地(居住地周辺)を中心に分布する種があることが分かりました。山地の種が平地に混



イロハモミジの葉と翼果

じりこんでいる時は、植えられた木と推測されました。その場所に2種以上のモミジ(カエデ)が植えられているところでは、イロハモミジが必ず見られるという、興味深い結果もでました。また、モミジに対する意識調査では、大多数の人がモミジや紅葉(こうよう)に興味関心を持っており、紅葉シーズンに多様な楽しみ方をしていることが分かりました。

"もみじ"の語は意味が曖昧になりやすいため、以下では次のように区別して用います。一般の人にもみじと呼ばれて親しまれているイロハモミジ、オオモミジ、ヤマモミジの3種を総称して「モミジ」、植物分類としてのムクロジ科力工デ属(モミジを含む力工デの仲間)を示すときは「力工デ」、それぞれの種名はカタカナ名で「〇〇モミジ」や「〇〇カエデ」、この他に、"もみじ街道"のように一般で使われている語句の場合は「もみじ」と平仮名書きをします。また、秋に葉が染まる現象は「紅葉(こうょう)」と、漢字書きします。

では、調査結果をご報告します。

Ⅰ 調査の目的と方法

カエデは日本に 30 種前後自生しています ^{1, 2}。山地の谷間や湿地に生える種が多いですが、尾根や斜面のやや乾燥したところに生える種もあります ¹。日本では古くから紅葉を楽しむ風習があり、モミジが庭や林縁部などに植えられてきました ³。滋賀県内にも永源寺や湖東三山など、モミジの名所が数多くあります。もちろん公園などにも植えられています。

モミジの代表種はイロハモミジですが、公園などにはオオモミジやハウチワカエデなども見られますので、この調査ではモミジを含むカエデの仲間(カエデ属)を対象にすることにしました。また、この機会にレポーターの皆さんにいろいろなカエデを見てもらいたいという願いもありましたので、対象を広くしました。調査の目的は、一つには、どの種がどこに生えているかを調べて、植栽を含んだカエデの分布を捉えること。特に、植栽に好まれる種と植栽場所の関係を探ることでした。もう一つは、紅葉時期の楽しみ方などから、レポーターの紅葉に対する意識を探り、紅葉をめでる伝統が現在も続いているかを知ることでした。

調査方法はいつものように、レポータースタッフが調査票と調査資料を作成して、それを県内各地のレポーターに郵送しました。調査票は2つあり、「調査票1」は見つけたカエデの形態と生育

地の観察記録でした。レポーターは調査票 1 の設問に従って調査を行い、観察結果を記入した後、それを博物館に送り返しました。調査場所は任意の地点ですが、調査目的との関連から、山道や山間地の道路脇で探したり、公園や住宅地などで探したりしてほしいと依頼しました。「調査票 2」は、モミジや紅葉に対するレポーターの意識を尋ねるアンケートでした。

カエデの種の確認は、送り返されてきた調査票に添付されている葉や翼果、または写真で行いました。同定にあたって、園芸種は基本的に原種の形態が残っていますので、原種で扱いました。イタヤカエデは変種等のレベルまで細分せず、広義のイタヤカエデとしてとらえました。ヤマモミジは現在オオモミジの変種とされるのですが 1、枝垂れの園芸品種を含めて5地点の報告がありました。枝垂れ品種のほとんどはヤマモミジからつくられたものですので 4、植栽を考えるために、ここではオオモミジに含めず、独立して扱いました。

調査期間は2018年9月から12月末まででした。



イロハモミジの葉と花

Ⅱ 調査の結果とまとめ

調査票 1(カエデの観察記録)は 22 名から、調査票 2(モミジや紅葉に対する意識を尋ねるアンケート)は 21 人から回答を得ました。全体では、調査の参加者は 25 名でした。

Ⅱ-1 カエデの形態と生育地の観察(調査票1)

1. 全報告地点数とカエデの報告件数

147 地点の報告が寄せられました。カエデは 143 地点で確認され、滋賀県内の調査地 141 地点の他に、県外の調査地が 2 地点ありました。1 地点で複数の樹種が見られたところもありましたので、カエデの件数は延べ 189 件でした。カエデ以外の木の報告は 4 地点あり、タイワンフウが 1 地点、タカノツメが 1 地点、プラタナスが 2 地点でした。

2. カエデ類の分布 一 山のカエデと里のカエデ 一

全調査地点と種ごとの分布図を図 1 に、調査場所ごとの種別件数を表 1 に示します。湖東の平野部と高島市の平野部に調査の空白地域がありますが、県内各地で広く調べられました(図 1-1)。同定の結果、16種のカエデが確認されました(表 1)。件数の多い順にイロハモミジ 97件、オオモミジ 25件、トウカエデ 13件、イタヤカエデ 10件、コハウチワカエデ 8件、ウリハダカエデ9件、ウリカエデ 6件、ヤマモミジ 5件、ハウチワカエデ 4件、ハナノキ 3件、コミネカエデ 3件、トネリコバノカエデ 2件、オオイタヤメイゲツ 1件、オガラバナ 1件、チドリノキ 1件、カジカエデ 1件でした。今回の調査では、亜高山帯に分布するオガラバナや、主に日本海側に分布す

るヤマモミジが報告されるなど 1、予想以上に多くの種が集まりました。

カエデは基本的に山に生えるので、分布の検討は"山地"と"平地"に着目しました。つまり、近くに人家があるかないかの違いで、人家がないのが"山地"、人家があるのが"平地"です。この観点でみると、調査場所の区分で「山林」と「林縁」の計 40 地点は山地、「寺社」は林縁にも平地にもあるので山地または平地、この3つを除いた「住宅地の道路脇」以下の7区分は平地にあたります(表 1)。おおよそ全体の三分の一が山地で調べられ、残りの三分の二が平地で調べられました。

【種ごとの分布】

イロハモミジは、全調査地点の図に重なるほど、多くで見られました(図 1-2)。オオモミジは件数がそれほど多くないものの、平地(滋賀県地図で黄色やオレンジ色のぬり分け部分)から山地(同じく、緑色のぬり分け部分)にかけて広く見られました(図 1-3)。調査場所区分では、イロハモミジは全ての区分で、オオモミジもまた、ほぼすべての区分で見られました(表 1)。

平地で多く見られたのは、ヤマモミジの園芸種(枝垂れ)、トウカエデ、トネリコバノカエデ、ハナノキでした(図 1-4、1-5)。トウカエデは、当初予想された「街路樹」の他に、「公共施設等」の植込みや「寺社」「住宅地の道路脇」など広範囲で見られましたが、「山林」や「林縁」にはありませんでした。トウカエデは江戸時代¹、トネリコバノカエデは明治時代²に移入された種ですので、この2種が平地に分布するのは当然かも知れません。ヤマモミジの枝垂れ品種は明らかに人が植えたもので、「寺社」「公園」「住宅の庭」で見つかりました。



ヤマモミジの枝垂れ品種

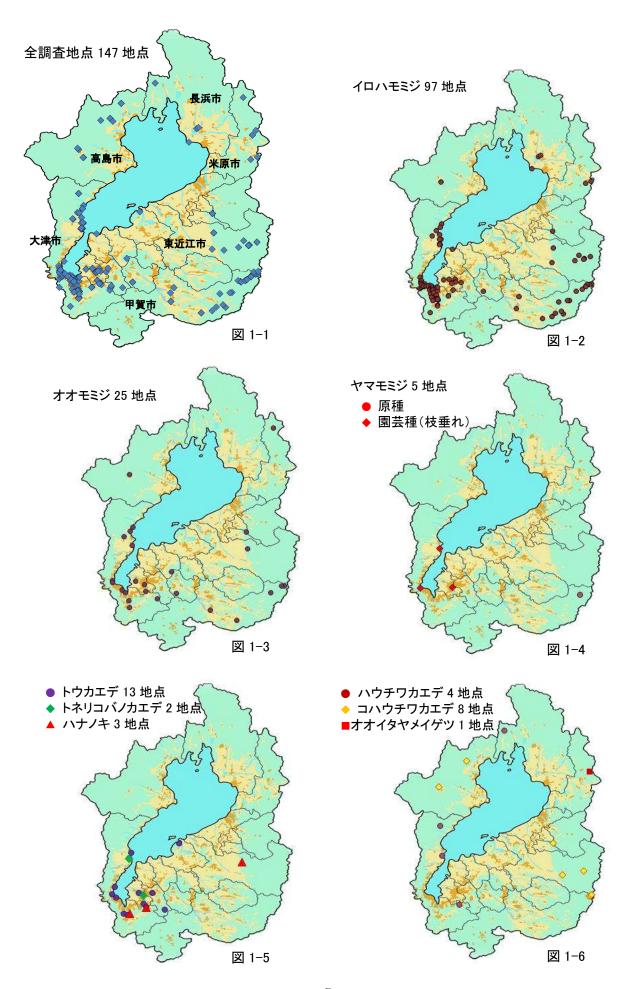
日本では観賞のために人々がカエデを好んで植えてきた歴史がありますので、平地に生育するカエデは、人の関わりが色濃いように思われます。

一方、山地で多く見られたのは、ハウチワ系の3種(ハウチワカエデ、コハウチワカエデ、オオイタヤメイゲツ)、ウリハダカエデ系の3種(ウリカエデ、ウリハダカエデ、コミネカエデ)、イタヤカエデ、カジカエデ、チドリノキでした(図 1-6、1-7、1-8)。どの種も報告数は多くありませんでしたが、「山林」では24地点でカエデが13種、「林縁」では16地点で7種がみられ、山地における樹種の豊富さが際立っていました(表1)。その中で、ハウチワカエデとイタヤカエデが、山地を中心としながらも、住宅地や寺社でも見られました。調査票の記録には、「住宅の庭」で見られたハウチワカエデは『家人が植えたもの』、「寺社」で見られたイタヤカエデは『駐車場側なので植えられたものと思う』と、書かれており、平地で見られたものは植栽であったという点は、とても興味深く思いました。

調査票の記述より

- ・林道脇など車で手軽に行ける場所のみ調査したが、意外と身近なところに多くの種類の カエデが見つかり、驚いている。(部分) ――高島市 Hさん―
- ・スズカスカイラインの道沿いでたまたま見つけた。紅葉していなければ全くわからない。きっと山中には、ふつうにあるのかもしれない。 下から見上げるとコミネカエデは、レース 状に光が透けて見える。(部分) ―三重県 Tさん―

滋賀県外の調査地は分布図に示すことができませんでしたが、ヤマモミジが福井県越前市の武生中央公園、オガラバナが石川県白山市にそびえる白山の高度約 1600m の地点に分布しました。



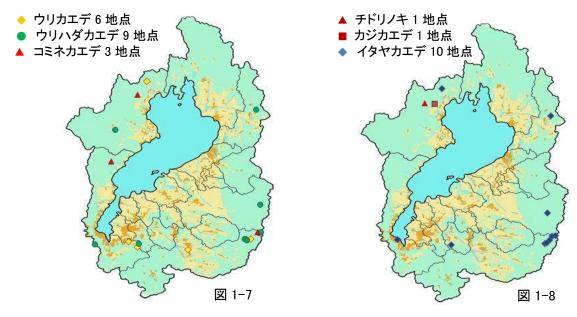


図 1 全調査地点とカエデ各種の分布図 (県外の調査地点は表示していない)

	生えていた場所	報告地点数	イロハモミジ	オオモミジ	ヤマモミジ	トウカエデ	トネリコバノカエデ	ハナノキ	ハウチワカエデ	コハウチワカエデ	オオイタヤメイゲツ	ウリカエデ	ウリハ ダカエデ	コミネカエデ	オガラバナ	チドリノキ	カジカエデ	イタヤカエデ	ごとの種数調査場所
山	山林·谷筋	24 地点	7	3	1				2	3	1	4	6	2	1	1	1	5	13 種
地	林縁	16 地点	8	4						4		2	3	1				3	7種
X	寺社	26 地点	24	9	1	1		1		1				,			,	1	7種
T	住宅地の道路脇	5 地点	1		,	1		1	1									1	5種
平	河原•土手	1 地点	1																1種
	大きな公園・庭園	13 地点	10	2	1	2	1												5 種
	小さい公園・広場等	13 地点	11	1	1	2													4種
地	公共施設•会社•店	19 地点	15	4		5													3種
	住宅の庭	6 地点	4	1	1		1		1										5 種
\downarrow	街路樹	13 地点	11			2													2種
•	その他	7 地点	5	1				1											3種
	合計	143 地点	97	25	5	13	2	3	4	8	1	6	9	3	1	1	1	10	

表 1 調査場所ごとの種別件数と種数







サンプルとして送られてきた葉

(左) コミネカエデ 北側さん採取

(中央) オオイタヤメイゲツ 辻さん採取

(右) ヤマモミジ辻さん採取

3. 自生と植栽 一 植えられる木の樹種と場所 一

紅葉で有名な場所(例えば、湖東三山や石山寺)は、もともとモミジが自生する場所だったかもしれませんが、そこに植栽樹を加えてより美しくしつらえ、人々を惹きつけてきたのではないでしょうか。この調査では、植栽される木の場所と樹種との関係をさぐることが目的ですが、その木が自生か植栽かを言いきるのは難しいことです。そこで、調査地点にその種が何本生えているか、周辺にどのような木が生えているかを観察し、さらに場所と人の関わりを考慮した上で、レポーターが「自生」「おそらく自生」「おそらく植栽」「植栽」の4つから選択し、その判断理由も記入する方法をとりました。

全 143 地点にみられたカエデ類の自生・植栽の別は、「自生」23 地点、「おそらく自生」13 地点、「おそらく植栽」22 地点、「植栽」79 地点、「自生と植栽の両方」6 地点でした。調査者が自生・植栽の区別に際して判断基準とした事がら(理由)をまとめたものを図 2 に示します。

植栽 … 79 地点

木の並びや配置(26)

直線的に並ぶ10、等間隔5

2、3種の木が順番に並ぶ7、人為的な配置4

- ・複数本の木の高さや太さが揃っている(7)
- ・人の関わりが見られる(16) 添え木がしてある7、樹名板や説明板3 手入れされている4、木が園芸種2
- ・大規模に造成・整備された場所 (24) 造成・整備で新たにできた 7 場所がら(公園 13、学校 1、団地 2、神社 1)
- ・庭木や植込み(7)

庭2、庭園3、敷地内の植込み2

- 場所の管理者や家人に聞き取り(6)
- ・植栽の経緯を知っている(2)

自生 … 23 地点

・木の並びや配置(3)

森の中にバラバラある1、斜面にランダム2

- ・複数本の木の高さや大きさが不揃い(3)
- ・人手が入っていない自然林(5)
- ・周辺の植生が自然林のもの(2)
- 生えている場所(7)

人通りのない里山内 1、川原の中幅 1 ヤマの急斜面 3、谷の斜面 1 登山道から少し入った所 1

- 木が小さい時から見てきた(1)
- ・聞き取り(1)

おそらく自生 … 13 地点

- ・木の並びや配置(2)ーか所にかたまってある1疎らに点在1
- ・複数本の木の高さや大きさが不揃い(1)
- ・周辺の植生が山のもの(1)
- ・生えている場所 (5) ブナ林の中に生えていた 1 人の行き来のない場所 1 谷の急斜面 2、山麓 1
- ・植樹の雰囲気がない(1)

おそらく植栽 … 22 地点

- 木の並びや配置(3)道路にそって2、ほぼ等間隔1
- ・周辺の植生 (3) この辺りには自生しない木がある 2 道沿いにあるが、山の斜面にはない 1
- ・植栽と自生の両方の要素があるが多分植栽(3)
- ・人の関わりが見られる(11)

古い寺社ゆえに人手が入っている6 手入れされている3、 木が園芸種1 管理署がつくった樹名板あり1

生えている場所(6)

公園内 2、学校 1、再建された寺 1 碑の植込み 1、遊歩道 1

自生と植栽の両方 … 6 地点

- ・大きい木は植栽、幼木は実生(1)
- ・自生の種と植栽の種が一緒にある(4)
- ・古い木と新しい木があり、区別が難しい(1)

図2 調査地の自生・植栽の別と、その判断理由

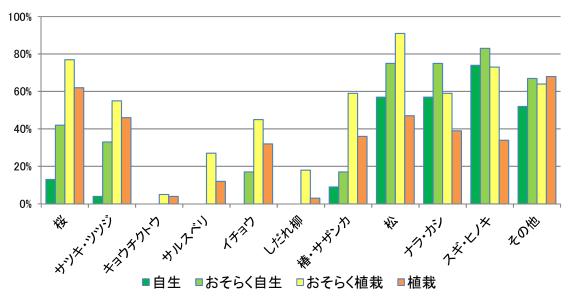
これによると、自生か植栽かの判断要素は、木の配置や大きさ、周辺の環境や植生との比較、人との関わりでした。例えば、直線的に並んでいたり、同じ太さや高さであったりしたら「植栽」。 バラバラに散在していたり、幹の太さもまちまちであったりしたら「自生」と判断されています。 選択後の回答は違っていても、木の配置や大きさを観るという視点は同じです。規則性の有無で判断するときに、人による解釈の差はあまりありませんでした。

一方、"おそらく"を付加するかどうかでは、人によって相違があるように見受けられます。「自生」と「おそらく自生」に挙げられた内容をみるとほとんど同じですし、「植栽」と「おそらく植栽」においても同様でした。『自生であると考えるけれども、絶対にそうとは言えない』と考える人は「おそらく自生」を選択し、『自生でほぼ間違いない』と考える人は「自生」を選択したのではないでしょうか。

【周辺にある木々から、カエデの由来を推定】

カエデの自生・植栽を周辺の樹種から区別できることを期待していましたが、結果的にははっきりとした差がでませんでした。桜とサツキ・ツツジは、「自生」と判断されたカエデの地点で見られることが少ない一方、「植栽」「おそらく植栽」の地点で半数以上、「おそらく自生」の地点でも半数近くに見られました(図 3)。キョウチクトウ、サルスベリ、イチョウ、しだれ柳、椿・サザンカの生育地点は多くありませんでしたが、「自生」「おそらく自生」の地点ではこれらがほとんど見られず、「植栽」「おそらく植栽」の地点には見られました。これらの種が見られる場所は、人の手が強く入っているようです。松、ナラ・カシ、スギ・ヒノキは、山地に生えるだけでなく、庭園や公園などにもよく見られることから、カエデの自生・植栽の判断には適さないことがわかりました。

中には、「すぐそばに桜が植えられているが、カエデは自然のもの」と書かれた調査票がありました。木の由来(自生・植栽)については、周辺の木だけでなく、他の判断要素を絡めて考える必要がありそうです。



N=131(植物の記載がなかった6地点と、自生と植栽の両方が見られた6地点を除く)

図3 カエデの周辺に見られた樹木

【植栽ではイロハモミジが中心だが、場所による樹種の違いも】

では、どんな場所にどの樹種のカエデが植えられていたでしょうか。図4に、レポーターの判断による調査木の由来(自生・植栽の4区分)と、「植栽」「おそらく植栽」と判断された樹種および件数を、調査場所別で示します。

「住宅地の道路脇」「住宅の庭」はすべて植栽、「大きな公園等」「小さな公園等」「公共施設・会社等」「街路樹」は植栽またはおそらく植栽でした(図 4)。大きくて立派(?)な公園だけでなく、小さな公園、学校、会社や店舗の植込み、そして家の庭でもカエデが選ばれて、植えられていることが分かりました。樹種は、どの場所区分においてもイロハモミジの件数が最も多く(「山林」「住宅地の道路脇」は同率1位)、件数をやや離されてオオモミジとトウカエデが続きました。トウカエデは「公共施設・会社等」で5件あり、大きな建物のある場所で予想外によく植栽されていました。

「寺社」の26地点では、28件中の23件が植栽またはおそらく植栽と判断されました。寺社には各種の古い木があると思われますが、カエデに関しては植栽と判断された木が多かったです。また、植栽ではイロハモミジとともに、オオモミジ、ヤマモミジ、トウカエデ、ハナノキ、イタヤカエデと、いろいろなカエデが選ばれていました。イロハモミジのアクセントとして用いられているのかもしれません。「住宅の庭」は6地点で5種のカエデが見られ、寺社と同様に、樹種の多様さに特色がありました。「街路樹」ではイロハモミジが多く使われており、瀬田川沿いや旧中山道などで報告されました。

「山林」「林縁」は植栽またはおそらく植栽と判断された木は少なかったのですが、山林を通る 国道の道沿いにイロハモミジが途切れずに植えてあったり、山林の遊歩道に山地性の樹種(ウリカ エデ、ウリハダカエデ)が植えられたりしていました。山林や林縁に植えられた樹種をみると、植 栽の目的(観光・公園整備)が透けて見えるようです。

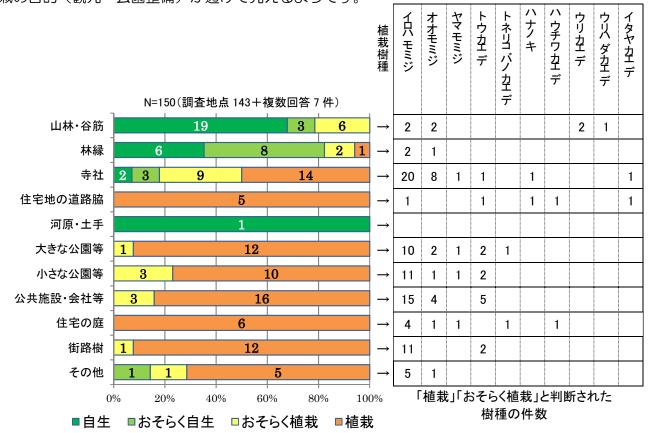


図 4 調査場所別の自生・植栽の割合および植栽樹種

4. 共出現 一複数の種が一緒に見られたところ—

1 地点に 1 種類のカエデが見られたところが多かったですが、すぐ近くに異なる種が生えていて、 複数種が一緒に見られた地点もありました。複数種が見られた 33 地点の樹種の組み合わせを図 5 に示します。2 種が見られたのは 24 地点、3 種は 6 地点、4 種は 2 地点、5 種は 1 地点でした。

【複数種の地点には大概イロハモミジが含まれる】

2種が見られた地点では、イロハモミジと別の種がペアになっていることが多く、24 地点中の19 地点(79%)でイロハモミジが含まれていました(図 5)。3種~5種が見られた計9地点でも、イロハモミジは8地点で含まれていました。このことから、複数種が一緒に見られるところでは、樹種の一つにイロハモミジが含まれている場合が非常に多いことがわかりました。また、イロハモミジとオオモミジが一緒に見られた地点が16地点あり、この調査で最も多い組み合わせでした。

◇2 種が見られた地点(24) ◇3 種が見られた地点(6) ● ハナノキ - 10→ オオモミジ イロハモミジ ← 4 → オオモミジ ← イロハモミジ 💺 • コハウチワカエデ 2→ ヤマモミジ トウカエデ ・コハウチワカエデ◆ `● トウカエデ イタヤカエデ ヤマモミジ ● 1 ● ウリカエデ ハウチワカエデ ウリカエデ イタヤカエデ ウリハダカエデ ←1 ◆4 種が見られた地点(2) ハウチワカエデ ◆ 1 → 1 → 1 → コミネカエデ イロハモミジ◆ 2 → ウリハダカエデマ ●イタヤカエデ• ● コハウチワ カエデ ●オオモミジ●ー → ウリカエデ

◆5 種が見られた地点(1)

イロハモミジ ●── オオモミジ●──● コハウチワカエデ●── ウリハダカエデ ●── イタヤカエデ

図52種以上が見られた地点の共出現(樹種の組み合わせ)

全 143 地点(延べ 189 件)における共出現(一緒に見られること)の樹種の組み合わせを線で結んで、図 6 に示します。イロハモミジは 9 種との組み合わせがある中で、オオモミジと最も強くつながっているのが見てとれます。また、イロハモミジはイタヤカエデとも強いつながりがありました。

イロハモミジが複数種で見られた件数が多いのは、その報告件数が多かったことに影響されています。イロハモミジ 97 地

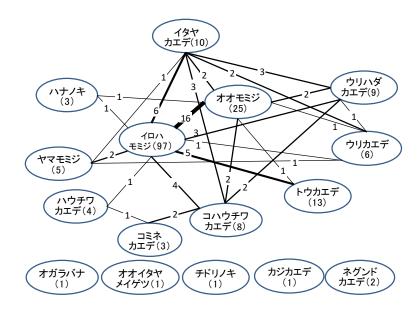


図6 全調査地点の共出現

種名の円内にある数字は報告件数、結んだ線上の数字は共出現の件数。

点のうち、単独で見られたのは 70 地点 (72%)、複数種で見られたのは 27 地点 (28%) ですから、複数種の地点の割合はそれほど高くありません。一方、イロハモミジと一緒に見られることが多かったオオモミジは、25 地点のうち、単独で見られたのは 9 地点 (36%)、複数種で見られたのは 16 地点 (64%) でした。それゆえ、イロハモミジが他のカエデと一緒に見られることが多いというよりも、オオモミジがイロハモミジと一緒に見られることが多いと捉えるべきでしょう。ただし、イロハモミジが見られる地点は非常に多いため、他の種と一緒に見られることが多いのも事実です。

【複数種を植栽した地点には、もれなくイロハモミジ】

複数種のカエデが見られたのは「山林」「林縁」「寺社」の地点に多かったのですが、樹種の組み合わせでイロハモミジを含むかどうかは、自生・植栽による差がありました。「自生」「おそらく自生」と判断された地点では、複数種が見られた 12 地点の中でイロハモミジを含んでいたのは半数の6 地点で、イロハモミジがある場合もない場合もある状況でした(表 2)。一方、「植栽」または「おそらく植栽」と判断された地点では、複数種が見られた 18 地点のすべてで、イロハモミジが含まれていました。人がカエデの植栽で複数の樹種を使う場合は、イロハモミジを含んだ樹種構成にする傾向があるようです。これは、イロハモミジがカエデの代表種と認識されて、人々に親しまれているので、選択的(優先的)に植えられるのではないかと考えられます。『とりあえずビール!』ならぬ、『先ずはイロハモミジ』という感じでしょうか。

2種以上のカエデが見られたのは、「自生」と「おそらく自生」の地点の三分の一、「植栽」と「おそらく植栽」の地点の五分の一だったことも特徴的でした(表 2)。植栽では 1種のみを植えていることが多く、一方で、自生つまり自然環境では複数種が生えていることが多いといえます。

調査地点の	1種のみの地点	2 種以上	合計	
自生・植栽の別	1種のかの地点	イロハモミジあり	イロハモミジなし	
自生・おそらく自生	25 地点	6 地点	6 地点	37 地点
植栽・おそらく植栽	83 地点	18 地点	0 地点	101 地点

N=138 (自生と植栽の両方が選択された地点を除く)

表 2 生息種数とイロハモミジの有無

Q&A

ウリハダカエデの翼果が房状のままたくさん落ちていた。 本来はどう飛ぶのか? どのくらい飛距離は伸びるのか? (三重県Tさん)

カエデの翼果は本来重力散布なので、飛ぶというよりも「落ちる」というのが正確な表現です。横風が吹くと、無風の時よりも翼果の回転が早く始まり、落下速度は遅くなるという結果はありますが。、どれ位の飛距離があるかは分かりません。高い構造物から落下実験をしてみるのが一番良いと思います。翼果が無事に見つかれば良いですが。

(大槻達郎)



ウリハダカエデの葉と 房状の翼果

5. イロハモミジ等のカエデが身近に見られるわけ

植栽樹にカエデが選ばれる理由、また、カエデはどのような使われ方をしているのかを、調査者の記述を紹介しつつ考察します。

瀬田川沿いの「夕照の道」と石山寺周辺、永源寺から三重県へ抜ける国道 421 号(「もみじ街道」 とも呼ばれる)、旧中山道などにイロハモミジの並木がありました。調査票には次のように記述されていました。

- ・石山寺前瀬田川河岸は元々桜の並木であった。平成に入り桜と桜の間にモミジが植樹され、 一部河岸土手にも植えられた。 一大津市 N さん―
- ・愛知川沿い(国道 421)にすっと途切れずにイロハモミジが植えてある。昔からのものと 最近のものがある感じ。とにかく景観のすばらしさにモミジは、ひと役もふた役も活躍して いる。(部分) —三重県Tさん—

これらの並木は、モミジの名所にちなんだ観光目的だけでなく、その場所の景観を形成するものとして、県や市町によって植えられたと思われます。近江花勝造園の西川勝氏に話をうかがうと、「武村正義知事が昭和 59 年に風景条例(ふるさとの滋賀の風景を守り育てる条例)を制定して以後、滋賀県で街路樹が植えられるようになった。カエデでは、トウカエデの街路樹があちこちにあるし、東近江市では道路沿いにモミジが植えられている。」と、教えてくださいました。風景条例によって景観が重視されるようになり、滋賀県の県の木ということでモミジ(イロハモミジ)が選定されることは、十分考えられます。

遊歩道や公園などには、カエデの中でも特にイロハモミジが多く植えられていました。モミジは、 夏に日陰をつくり、秋に紅葉を楽しめるため、散歩をする人や利用者に安らぎを与えます。また、 強い刈込みが必要でないため、管理しやすい木です⁷。調査票に次のような記述がありました。

・公園として整備されており、春(桜の花見)も夏(木陰)も秋(紅葉)も楽しめるように、 緑地全体のスペースの中で各種の木がレイアウトされている。 — 大津市 M さん— 一般的に"春の桜"に対する"秋のモミジ"という意識がありますので、多くの人に知られて親しまれているモミジは、公園で定番の木かもしれません。

寺社はこの調査で最も多い調査場所でした。これは、調査者が寺社にはカエデがあることを予想 して出向いたもので、紅葉で有名な寺社が県内各地にあるためだと思われます。調査票の記述に、

と、書かれたものがありました。また、前述したように、寺社ではいろいろな樹種が植えられていました。このように、参道にモミジを並木状に配したり、樹種に変化を持たせたりしているのは、 参拝や観光で寺社に来る人に喜んでもらうための工夫(おもてなし)でしょう。

公共施設、会社、店舗の敷地内をはじめ、住宅の庭でもカエデが見られました。住宅の庭を調べた調査票には、次のように書かれていました。

まだ若い人達の新築の庭で、植えて間がない若い木です。全体としてスッキリした庭で、モミジが彩りを添えています。(部分)一大津市 M さん一

カエデは和風の建物や庭に合うと思っていましたが、パン屋の店舗入口や、若い人の洋風の家で見られたのは、カエデをシンボルツリーに使う新しいスタイル ⁴です。いろいろな使われ方がされることで、カエデは年配の人だけでなく、若い人にとっても身近な木のようです。

前述の西川勝氏は、「庭園では、カエデは主木(松、モッコクなど)に添える木として使われ、 借景に欠かせない雑木。樹種はヤマモミジ(造園や園芸では、園芸品種ではないいわゆるモミジの 原種をそう呼ぶらしい)が多く使われる。モミジに風が吹くと、葉や枝がきれいに揺れる。モミジは秋の紅葉だけでなく、夏に木陰をつくり、長く楽しめる木である。」とおっしゃいます。長く楽しめることも、私達にカエデを身近に感じさせる要因でしょう。

6. 「カエデの形態と生育地の観察(調査票1)」のまとめ

この調査で最も多く見られたのはイロハモミジでした。オオモミジとともに、滋賀県で広く見られました。山地では13種が確認され、カエデの樹種が豊富なことが改めてわかりました。三分の一の地点で複数の樹種が見られたことも、山地ならではの特性でしょう。木の件数では8割以上が「自生」「おそらく自生」と判断されましたが、山地であっても人が植えたと判断されるものがあったことに驚かされました。一方、平地(寺社を除く)では8種が確認されましたが、イロハモミジの件数が圧倒的に多かったです。また、移入種のトウカエデやトネリコバノカエデが平地のみで見られたこと、園芸種(枝垂れや、葉に色模様のある木など)が多数あったことも、特徴として挙げられます。平地では、「植栽」「おそらく植栽」と判断された木がほとんどでした。

カエデが共出現する地点の8割でイロハモミジが見られました。「植栽」「おそらく植栽」と判断された地点に限ると、イロハモミジを必ず含む樹種構成になっていました。イロハモミジはカエデの代表種といわれる理由が、植栽される樹種に表れていました。

人々に親しまれ、木陰や紅葉などで長く楽しむことができ、また、造園で新しいスタイルの使われ方がされていることも、カエデを身近な木にしている理由と思われます。滋賀県で風景条例が制定されたことや、滋賀県の県の木がモミジであることもプラス要因になって、カエデが街路樹や公園などに植えられるのでしょう。カエデを見て楽しむ立場の人がいる一方で、カエデを見て楽しんでもらおうとする立場(観光関連や寺社など)の人がいることも、おぼろげに見えました。

Q&A

翼果がならない品種もあるのでしょうか。 (草津市 K さん)

カエデの仲間で翼果のない樹種はありません。 ただ、雄花と雌花が別々の株に咲く樹種はあります。そのため、翼果がないカエデを発見したら、それは雄株かもしれません。あるいは、「カエデ!」と思っても、違う樹種かもしれません。 2018年は台風の影響で早々と翼果が落ちてしまった木が多くみられました。樹木を見るとともに、丹念に地面を探してみると、翼果を発見できるかもしれません。 (大槻達郎)



オオモミジの園芸品種

葉の紅色が強い。9月に採取されているので、 紅葉による変化ではない。春先から赤色をして いたものが、夏に緑を増した状態と判断される。

レポーター便りは白黒印刷のため、色を提示できません。博物館のホームページでご覧ください。

Ⅱ-2 モミジへの興味関心と紅葉の楽しみ方(調査票2)

1. モミジの美しさを意識する時期

春、夏、秋のどの時期のモミジをきれいに思って見ているのかを、尋ねました。複数回答で、春の若葉と花の時期が9人(43%)、夏の緑のカーテンの時期が12人(57%)、秋の紅葉の時期が18人(86%)でした(図 7)。「綺麗と思う時はあるが、時期としてはない」と答えた人が1人ありましたが、ほとんどの人は美しいと感じてモミジを見る時期があるようです。それは秋の紅葉時が最も多く、多くの人にとってモミジと紅葉は切り離せないものになっていることが推察されます。一方、夏の緑葉はやさしくて涼しげなところが好まれるのでしょうか、大半の人がきれいだと感じていました。意外だったのは、一般に興味の対象外と思われる「春の若葉と花」を43%の人がきれいと思って見ていたことです。これは自然や社会に対する関心が高いフィールドレポーターだからかも知れません。あるレポーターが、落葉後に残った枝について言及していました。冬枯れの時期の美しさを調査票の選択肢に入れなかったことを悔いています。

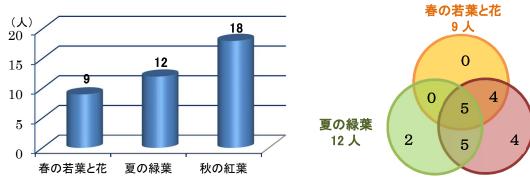


図 7 きれいだなあと思って見る時期(複数回答)

図8 きれいだなあと思う時期の回答の内訳

N = 21

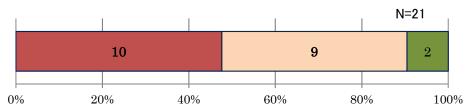
秋の紅葉

18 人

複数回答可でしたので各人の詳細をみると、3つの時期の単独回答者は"夏"が2人、"秋"が4人でした。複数回答者は"夏と秋"が5人、"春と秋"が4人、そして"春と夏と秋"が5人でした(図8)。春の時期だけをきれいと思う人はなく、"秋"または"夏と秋"との複数選択の中で、春が選ばれていました。秋の紅葉は大多数の人に関心をもたれており、その中で夏や春へと視野が広がるのかもしれません。3つの時期すべてを選択した人は、モミジだけでなく、植物全般に興味を持っている人が多かったです。なお、園芸品種は春の芽出し時期に葉の色が美しいものが多く、園芸愛好家の間では『春もみじ』と言って、観賞で見逃せない時期だそうです。

2. 自宅周辺にある紅葉する木

「自宅の近くにイチョウやプラタナスなどの紅葉する木がありますか」の設問では、普段の生活の中で紅葉を見る機会がどれくらいあるかを捉えようとしました。結果は「たくさんある」が 10人、「少しある」が 9人、「ほとんどない」が 2人でした(図 9)。紅葉する木々を日常的に見られるところに住んでいる人が約半数、意識して見れば目にすることができる人が約半数、そして、近所で紅葉を見ることが難しい人が少数あるということになります。ただ、ごく近くに住んでいる 2人の片方が「たくさんある」、もう片方が「ほとんどない」を選んでいたのは不思議でした。この設問では木の本数や面積による判断を求めていませんので、実際の木の多少よりも、調査者の意識がここに表れていると解釈されます。また、紅葉する木が近所のどこにあるかを知っているかどうかによっても、回答が左右されるように思います。



■たくさんある □少しある ■ほとんどない

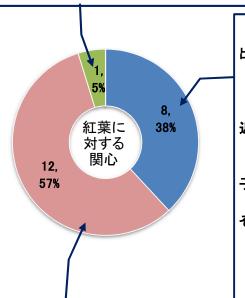
図9 自宅周辺にある紅葉する木

3. 紅葉に対する興味関心と楽しみ方

レポーターの紅葉への興味関心はどの程度で、どのような楽しみ方をしているでしょうか。「木々の紅葉に興味関心がありますか」という設問に対する回答は、「とても関心がある」が8人、「ある程度関心がある」が12人、「特にない」が1人、「以前はあったが今はなくなった」は0人でした(図10)。大多数の人が紅葉に対して何かしらの興味をもって(気にかけて)おり、強い関心を持っている人も多いことが分かりました。

特に関心はない 1人

・紅葉時期には庭木や果樹の剪定・枝払をする。木々は夏の間に枝葉を広げるのでこの時節を待って行う。



とても関心がある 8 人 (うち 2 人は主要素が 2 つあり)

出かける…4 人

- ·少し遠出をする(東北、大山…)。 ·モミジの名所に行く(2人)
- ・出掛けたついでに最寄りの山の林道を走り、年ごとにまた時期 ごとに変わる紅葉の鮮やかさを楽しむ。

近くで…1 人

・初夏は公園や神社でカエデの若葉を見ること。花を見つけるのが楽しみ。秋は山が紅葉するのを眺めながら散歩する。

子どもと…1 人

・息子と、落葉したモミジを集めて「葉っぱのお風呂」を作る。

その他…4人

- ・色々な植物の紅(黄)葉を写真に撮り、季節以外でも楽しむ。
- ・落葉したカツラの葉の甘い香りを楽しみながら、徒歩で帰る。
- ・木々の葉が紅葉し、落葉する仕組みに強い関心がある。
- ・もみじが大地へ散り、骨(幹と枝)だけが残る。

ある程度関心がある 12 人

出かける…3 人

・神社仏閣を中心に出かける。 ・林道歩きに行く。 ・ツーリングでモミジの名所に行き、ご飯を食べる。 **近くで…5人**

- ・子どもと公園に遊びに行くついでに、紅葉を楽しむ。・モミジの時期はできるだけ旧道を通る。
- ・公園で行われる落ち葉と触れあうイベントを楽しむ。紅葉しているものを生活の中で見つけて話す。
- ・近くにある桜並木の紅葉や、隣の家のドウダンツツジが染まるのを見るなど、もっぱら近所で。
- ・神社にお参りをする楽しみの一つとしている。

その他…4 人

- ・絵の対象として見つめている。・例年に比べて、紅葉が早いか遅いか。変化する過程を見る。
- ・人混みは嫌いなので、テレビで京都の旅番組を観る。
- ・葉の色の変化の不思議さとその仕組み(若葉の頃はみずみずしさ、紅葉始まりに一晩で変化する姿)

図 10 紅葉に対する関心度合いと紅葉の楽しみ方

「興味関心がある」と回答した人の紅葉の楽しみ方と、「特にない」と回答した人のその理由を、図 10 にまとめて示しています。これを見ると、紅葉に対する関心度合いは違っていても、単に見て美しいというだけでなく、観察を伴う楽しみ方をしていることがわかります。例えば季節変化(葉や花)、紅葉の年次変化、葉の香り、落葉後の枝や幹の様子、落ち葉と触れあうイベントへの参加などです。また、いろいろな目線があって、剪定の時期(農学的)、紅葉や落葉の仕組み(生物学的)、絵画の対象(芸術的)など、個性豊かです。家族と一緒に何かをしたり、旅番組を見たり、当地で美味しいものを食べるのも、楽しさが膨らみます。

興味関心の度合いの選択はあくまでもレポーターの主観による回答ですが、「とても関心がある」と「ある程度関心がある」のグループでは、楽しみ方に多少の違いがありました。それは、紅葉を楽しむために少し遠くに出かけるか、或いは近所で楽しむかです。「とても関心がある」のグループは、出かける人が4人(50%)、近くで楽しむ人が1人(13%)でした。ただし、近くで楽しむという人は、出かけて〇〇するを併記していて、近くの場所と出かけた先との両方で楽しむようです。一方、「ある程度関心がある」のグループは、出かける人が3人(25%)、近くで楽しむ人が5人(42%)でした。近くに紅葉を楽しめる場所があるのが一番ですが、「とても関心がある」という人は行動範囲が広く、積極的な活動を伴うように思います。

4. 好きな紅葉見物の場所、お勧めの紅葉スポット

地域のことをよく知るレポーターの皆さんに、好きな紅葉場所を教えてもらいました。紅葉の場所の一覧を表3に示します。滋賀県内では18箇所が挙がり、日吉大社と永源寺がそれぞれ2人から推薦されて一番人気でした。他の寺社も、紅葉で有名な場所ばかりです。それに対して、狛坂磨崖仏周辺以下の山林・林縁の場所は、穴場のポイントではないかと思われます。関心のある方は、この晩秋に訪れてみてはどうでしょうか。他府県の紅葉場所は6府県16箇所で、予想以上に数多く挙がりました。聞いたことのある地名が並んでおり、名所が多いようです。その他としては、車窓からの景色などが挙がっていました。

滋賀県	日吉大社(2) 三井寺 教林坊(近江八幡市) 長寿寺(湖南市)
	永源寺(2) 湖東三山 徳源院清瀧寺(米原市)
	瀬田文化ゾーン 琵琶湖博物館入口から見えるメタセコイア
	狛坂磨崖仏周辺(栗東市) 甲賀市鮎河〜大河原の川沿い 青土ダム周辺
	鈴鹿スカイライン ブナ林の紅葉:①大日尾根 ②駒ヶ岳南尾根(共に高島市)
	天狗岩の岩壁の紅葉(高島市) 伊吹山の山道から見る隣の山
	500m くらいの幅で山の斜面が眺めわたせる場所
三重県	御在所岳 いなべ市石槫から永源寺に抜ける道
京都府	西本願寺の大銀杏 真如堂 東福寺 清水寺
	高雄 嵐山渡月橋 平等院近くの川沿い 宇治太陽が丘公園
大阪府	箕面公園
和歌山県	高野山 根来寺
広島県	三段峡 帝釈峡
青森県	八甲田山~毛無岱~酸ヶ湯温泉
その他	湖西線の車窓から見る比良山系の紅葉 車窓から見る遠景
	葉の色の変化が楽しめる並木

表 3 好きな紅葉場所 一覧

これらの場所は地理的に広範囲で一見バラバラですが、調査票1で用いた場所区分で考えると、 山林や林縁と思われるところが17箇所、寺社13箇所、公園2箇所、その他2ヶ所になります。 調査票1では平地の各所でカエデが報告されましたが、紅葉見物の場所となると、山間地にある紅葉の名所が挙がるようです。もう一つには、やはり寺社(特に寺院)が多くあり、立派な庭園を持つ寺院がモミジの名所になっていることが推察されます。

調査票の記述より

湖東三山、教林坊、真如堂、東福寺など、有名なところはさすがに見ごたえがありますが、近くの遊歩道でもそれなりにきれいな紅葉を見ることができます。また雑木林でもいろいろ な樹木の紅葉(黄葉)が見られてきれいだと思います。 —大津市 H さん—

5. カエデの利用

カエデの材や葉の利用について、レポーターの体験や伝聞を記入してもらいました。

一番多かったのは「モミジの葉の天ぷら」でした。これを挙げた9人中8人は実際に食べたことがあるそうで、みなさんグルメ?です。その味は、「美味しかった」(1人)と「美味しいとは思わなかった」(2人)の両方がありましたが、「味よりも季節感を感じるもの」(2人)という見解に説得力がありました。

次に多かったのが工芸クラフトでの利用でした。紙すきハガキをつくる際にモミジの葉を飾りに 漉き入れたり(3人)、ラミネート加工をして栞にしたり(1人)、葉っぱのグラデーション作品を 作ったり(1人)したことがあるそうです。

このほか、料理で天ぷらの飾りなどにイロハモミジの葉が使われていた(2人)、マキとして燃料に使った(1人)、エレキギターのネックにメイプルの材が使われている(1人)、樹液でシロップを作ると聞いた(1人)、樹皮を染色材に使うと本で読んだ(1人)がありました。

上記の中で、マキとギターのネックとメイプルシロップ以外は、葉を利用しています。私たちの 身近な所では、葉の利用が多いようです。

おわりに

「カエデの見分けは難しい」といわれているのを承知で、この調査を始めました。カエデの中で モミジは秋の代表的な植物であるのに、知らないことがたくさんあると思ったからです。ましてや カエデは、文部省唱歌の「もみじ」で♪松をいろどる楓(かえで)や蔦(つた)は ~♪と習った にもかかわらず、悲しいことにその姿形を思い浮かべられません。モミジを糸口として、フィール ドレポーター調査でカエデの間口を広げたいと計画しました。

調査では、カエデの分布だけでなく、人との関わりが見える植栽を取り上げました。分布については、植物に詳しいレポーターが山地を調べてくださったお蔭で、山地に生える種と平地に生える種を比較することができました。また、カエデの分布は滋賀県植物誌®などに載っていますが、今回、思わぬところから思わぬ種が見つかりました。地域のことをよく知るフィールドレポーターの力が発揮された結果といえます。植栽の場所と種の関連については、レポーターの鋭い観察とコメ

ントから、人がカエデを植える際には先ずイロハモミジを選択する傾向があることがわかりました。 現在でもなお、私たちがイロハモミジに親しみを感じているからだと思います。植物の専門家は植 栽にあまり関心をもたれないので、今回の"先ずはイロハモミジ!"という調査結果は、フィール ドレポーター調査らしい新発見と自負しています。

カエデの見分けが難しいのは、葉の変異が大きいためですが、ハナノキの同定では悩みました。 東近江市で国の天然記念物になっているハナノキは、葉の切れ込みが浅いのですが、届いたサンプ ルの中に、切れ込みが深くて大きな鋸歯を持つものがありました。また、道路の緑地帯に植えられ た木は、翼果(タネ)をつけていました。ベニカエデと呼ばれる、アメリカハナノキの園芸品種か もしれません。琵琶湖博物館の石田未基さんによると、滋賀県内で以前から知られているもの(あ る程度有名な木)は全て雄株で、翼果をつけないそうです。ハナノキは紅葉が美しいので植えられ るのだと思いますが、今後、滋賀県には分布しない種が実生で広がる可能性が無くはありません。

今、野外ではカエデの多くの種が花の時期を終え、翼果が赤く目立っています。レポーターの皆さんは、この調査を通して、カエデをぐっと身近に感じるようになられたでしょうか。これから夏にかけては"青もみじ"の季節です。お出かけ先で、モミジを見上げてみませんか。

最後になりましたが、調査にあたっては、多くの方にお世話になりました。東近江市の近江花勝造園の西川勝氏には、造園におけるカエデの使われ方などを丁寧に教えていただきました。高島市の森林公園くつきの森センター長の海老澤秀夫氏には、園内のカエデの林で、種の見分け方などを教えていただきました。琵琶湖博物館植物標本室の石田未基さんには、カエデ全般について教えていただいたほか、サンプルの同定で大変お世話になりました。また、琵琶湖博物館学芸員の林竜馬さんには、同定や分布についての文献を教えていただきました。琵琶湖博物館学芸員でフィールドレポーター担当の大槻達郎さんには、調査の準備段階から報告書作成までの期間を通してご指導いただきました。皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

参考文献

- 1. 大橋広好 (2016) 「日本の野生植物 3」 平凡社
- 2. 石井英美 (2000)「山渓ハンディー図鑑 4 樹に咲く花 離弁花 2」山と渓谷社
- 3. 飛田範夫 (2002) 「日本庭園の植栽史」 京都大学学術出版会
- 4. 川原田邦彦 (2006) 「カエデ、モミジ(NHK趣味の園芸 よくわかる栽培 12 か月)」 日本放送協会
- 5. 全国知事会 「滋賀県のシンボル」 http://www.nga.gr.jp/pref_info/symbol/shiga.html (参照 2019-5-3)
- 6. 市河三英, 川瀬恵一, 斎藤茂勝, 三村昌史, & 杉本剛. (2007). 翼果は横風の中を飛ぶ. In 理論応用力学 講演会 講演論文集 第 56 回理論応用力学講演会 (pp. 165-165). 日本学術会議「機械工学委員会・土 木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会」.
- 7. 妻鹿加年雄 (1977) 「NHK 趣味の園芸:作業 12 か月③ モミジ」 日本放送協会
- 8. 北村史朗編 (1968) 「滋賀県植物誌」 保育社

「集まれ!モミジ(カエデ)の仲間たち」調査のご案内



コオロギなどの虫の音がひそやかになり、アキアカネが色鮮やかになって空を舞う季節になりました。そろそろ、紅葉(こうよう)の便りが待たれます。今回のフィールドレポーター調査は、紅葉の代表格であるモミジをはじめ、それが属する"カエデの仲間"全般を取り上げることにしました。皆さんはモミジをよく御存じだと思いますが、この機会にモミジやカエデについてより詳しく知り、今年の紅葉を楽しんでみませんか。

イロハモミジがイロハカエデとも呼ばれるように、モミジはカエデ類(ムクロジ科カエデ属)に 分類されます。カエデ類は日本に30種前後ありますが(研究者によって種数の見解が異なる)、 1. 葉が対生(たいせい:1箇所から左右に対になって出る)についている 2. 竹トンボのような翼 果(よくか:翼のついた果実)がある、という2つの特徴が見られれば、カエデ類であることがすぐ にわかります。(添付資料を参照)

カエデ類の多くは秋に美しく紅葉するので、古くから人があちこちに植えるだけでなく、たくさんの園芸品種がつくられ観賞されてきました。この調査では、どの種がどこに生えているか(カエデの分布)を調べるとともに、どんな種がどんな所に植えられているか(植栽の場所と種の関係)を知りたいと考えています。

そこで皆さんには、二つの方法でカエデを探していただきたいと思います。一つは、山歩きする際の山道や、山間地の車道脇で探す方法です。11 月下旬頃に紅葉・黄葉した木に注目すると、楽かもしれません。もう一つは、モミジの名所や公園、住宅の庭、街路など、平地で探す方法です。予想以上に多く見つかるでしょうし、湿地では思わぬ種類を見つけるかもしれません。

ただ、対生と翼果でカエデ類とわかっても、カエデの葉は化ける(葉の変異が大きい)ので、種を見分けるのに考え込むことが多々あります。そのため、この調査では、<u>葉っぱと夕ネ(翼果)をサンプルとして送っていただくか、採取できない場合は写真に撮って送っていただきたい</u>と思います。サンプルの採取と送り方については、別紙をご覧ください。今回は、博物館の植物標本整理室の石田さんのご協力を得て、送っていただいたサンプル又は写真から同定を行い、それがどの種であったかを後日お知らせいたします。

<u>調査期間は 2018 年 12 月末まで</u>とします。この調査票が届いてすぐに出かけると、気候も良く、木に翼果がついているのが見られるでしょう。また、11 月に入るとそろそろ紅葉が始まり、 美しい姿に感動が得られるでしょう。皆さんそれぞれに、出かけてみてください。

調査の説明会とミニ観察会 *申し込み不要

日時…10月20日(土) 14時~17時

場所…博物館実習室1 (エントランスから左の通路を進み、ホールの手前)

内容…カエデについて・サンプルの採取と送付方法・屋外でカエデ4種を 観察・情報交換

「モミジは分かるけどカエデはねぇ…」と感じていらっしゃる方、種の見分け方を 知りたいと思っていらっしゃる方など、皆さんのご参加をお待ちしています。

Appendix 2

「集まれ!モミジ(カエデ)の仲間たち」調査票1

*	1地点	にカエデ類だ	が3種類以上	あった時に	こは、お手数	ですが、	3種目以降の	記録は別	の調査票	を使って	てください。		
1	. 調査	查者											
2	. 調査	查日 20)18 年	月	日								
3	. 調査	查地点	住所		市∙町								
			地点の目印	卩 (なる/	べく詳しく…雪	区田保育	園の北 50m 0	の道路脇、	樹下神社	Łの境内	など)		
			緯度経度	(わかれ)	ば)北緯 _			東網	圣				
				* 小数	点の位置に気	をつけて	記入してくだ	さい。					
4	. 見つ		*一つにC										
	(筋(
	(ᢒ寺 ╚╶╲╅╵┍╸					ずの小さい	`公園・□	場∙集	会所		
	(设∙会社∙店 <i>σ</i> (
	(/14166例	(
5	. 見つ	つけたカエー	デの観察記	4.75			きない場合に 設問 9 の箇						
					るべく詳しくお			17711-000			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		
		同封する	サンプルや	1種目	リ サンプ	ル No		2 種目	サンプノ	レ No			
		写真の	-		写真	Vo			写真 N	Vo			
	(1)		っていますか たどの描せら		± Z (1+=11)	() =	z (\ + >! \)		
			などの模様に らしん)の大き		ある (cm	ー が 幅	cm	()の 長さ	る(cm)ない 幅	cm		
	葉身について			1 20_			<u> </u>	区C		" 田	UIII		
	らい		うへい)の長さ		cm		/ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		<u>cm</u>	T U /	\ L		
	7	④切れ込命	みの有無と 数		ある <u></u> ある葉とな				る <u></u> る葉とな				
			<u>~~</u> ザギザ(鋸歯))ない(る()ない			
		①枝につく			たくさんあん) 少しある	()た	 くさんあ <i>?</i>	 ろ()少しある		
	(2)		, 3		見つからな				つからな		79000		
	異	②地面に落	客ちた翼果	()	落ちている)		()落	ちている)			
	翼果につ				見つからな				つからな		中 (1)		
	いて	③翼果の間	開き具合			≤んど閉じる(U 字形) 角に開く(V 字形)			()ほとんど閉じる(U 字形) ()鋭角に開く(V 字形)				
					鈍角に開く		り内向き)	()鈍角に開く(水平より内向き)					
				()	ほぼ水平に	こ開く	<u> </u>	()(s	ぼ水平に	こ開く	<u> </u>		
	(3)子	を想される種	名は?				J	l			J		
	(4)そ	こから見え	る範囲内に	()	1~2本	()3	~5 本	()1-	~2本	()3	~5本		
その種が何本位ありますか				()	6~9本	()10) 本以上	()6-	~9 本	()1	0 本以上		

(の近くには、他に)桜 ())シダレヤナギ)スギ・ヒノキ	サツキ・	ツツジ)椿	()+	ョウチ		() +		-)イチョウ やカシ
(のカエデは植え)植えたもの 思う理由は?(*)	()お	そらく植	えたも	の	()‡							
8. そ	の場所の様子(自然環境	き、人の	·····································	····································	理など	····································	····································		えてくた			
	査を通して気づ												
この 葉は		葉身の長さ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 cm

2018 年度第 2 回調査

「集まれ!モミジ(カエデ)の仲間たち」調査票2

調査票2は、お一人につき一枚をご提出ください。 カエデの調査に出られなかった人も、この調査票にご記入の上、お送りください。 調査者名 1. あなたがモミジを見た時にきれいだなあと思うのは、どの時期ですか? (複数回答可) ① 若葉と花の時期 ② 夏の緑のカーテンの時期 ③ 秋の紅葉の時期 2. 近所に、モミジや紅葉する木(イチョウ、プラタナス、カツラ等)がありますか? (-つにO) ③ ほとんどない ① たくさんある ② 少しある 3. あなたは、木々の紅葉に興味関心がありますか? ① とても興味関心がある ② ある程度、興味関心がある ③ 興味関心は特にない ④ 以前は興味関心があったが、今はなくなった 【設問3で、①②と答えた方にお尋ねします】 、 私は、近くの公園の木が真っ赤に染まる 4. あなたは紅葉シーズンをどのように楽しみますか? ので遠回りをして買い物に行きます。 【設問3で、③4と答えた方にお尋ねします】 5. 興味関心がない、もしくはなくなったのは、何か理由がありますか? 【以下は全員にお尋ねします】 6. あなたの好きな紅葉見物の場所や、お勧めの紅葉スポットがあったら教えてください。 7. あなたはモミジやカエデを料理、手芸、木工など、何かに利用したことがありますか? また、「このような利用をしている」と、聞いたことがありますか。

Appendix 4

